

## 助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人 さんきゅうハウス

代表者・役職名 氏名 渡邊 守

### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. 助成プロジェクト名

地域住民参加型 生活困窮者自立支援事業

### 2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2000年に発足した「三多摩野宿者人権ネットワーク」を母体に2010年11月、独立行政法人福祉医療機構の助成を受けて、「さんきゅうハウス」として生活困窮者への食事・入浴・洗濯・相談サービスを事業として発足した。2011年7月にNPO法人として運営開始、2012年11月に新館オープン。

### 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

さんきゅうハウスが路上生活者の自立支援に役立つだけでなく、ご近所の皆様が気楽に集い交流し楽しむ場としても存在できることを示します。やがてはすべての家がさんきゅうハウスのように心を開いて、困っている人を見捨てないまちづくりをすすめます。困ったとき、救いがほしい時には遠慮しないで頼れる付き合いがひろがり、市民が地域家族のようにつながれる仕組みをつくります。

### 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

- ①地域住民ふれあい交流事業(ヨガ教室、気功教室、うどんやみそづくり、コミカフェ運営など)
- ②生活困窮者就労支援・啓発・資金づくりを目的とした「さんきゅうハウス」ブランドジャム製造・販売
- ③三多摩フードバンク事業として市内の困窮母子家庭等へのパン・食品・食材の無償配布

### 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

- ①カフェの営業日数1⇒2日に、担い手と常連さんが6名増えて、NPO活動への地域からの支持が高まりました。
- ②ジャムは200個製造し就労支援準備事業となり、購入活動通じて志金を地域で循環させることに成功しました。
- ③社会福祉協議会、ワーカーズコープとの連携が強くなり、羽衣地域包括、くらしと仕事サポートセンター窓口で食品申請書を置き、15世帯に緊急食糧支援を実施し、7世帯は自立に向かい、8世帯は支援継続中です。

### 6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

- ①カフェ営業日を週3日+αに増やします。ハウスの左半分をフリマー、美容室、小物ショップなどにします。
- ②ジャムの製造個数を増産し、地域のコミカフェとも連携して、「志金」の地域循環を進めます。
- ③フードバンクへの企業や一般家庭からの食品無償提供(フードドライブ)をすすめ、月2回の配達と緊急時引き取り、両方向での仕組みをつくります。倉庫管理者の配置や在庫管理など管理レベルの向上も課題です。

### 7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり ・ 特になし



カリエ内のヨガ教室  
毎月2、4出曜日に開催  
毎回5~8名が参加しました。